

知的財産を会社経営に取り入れる

—特許は会社が儲かるためにあるのです—

第1章 知的財産は、会社の利益に貢献するためにあるのです

1. 声を大にして言いたい
2. 経営トップが正しく認識する
3. 企業成長に結びつく条件
4. なぜ商品開発が必要なのか
5. 10%～30%の新商品比率を保て
6. 商品開発の基本
7. 商品開発に成功している企業トップの共通点
8. 特許は社員を元気にする源泉
9. 特許は我が社の増収・増益の手段
10. 特許が会社を守ってくれる
11. 特許権は我が社の差別化領域を囲む塀

第2章 会社利益への貢献、「知財経営」を実践する知財戦略(マネジメント)

1. 技術戦略が経営戦略の中心である
2. 経営戦略の中での位置づけ
3. 知財戦略の活用は難しいか
4. 攻めの体質で不況を克服
5. 攻めの特許戦略の基本
6. 知財戦略の評価の例：A B C分析 (1)
7. 知財戦略の評価の例：A B C分析 (2)
8. 知財戦略の評価の例：A B C分析 (3)
9. 特許を集中させたときの効果
10. 特許戦略によって会社が

この講座は、弁理士 嶋 宣之が発行してきた「ひとくちメモ」をベースにして作成しております。知的財産権には、特許、実用新案、意匠、商標、著作、著作権などが含まれていますが、当時の原稿のまま「特許」で、ひとくくりしています。(2015年8月)